

多治見ライオンズクラブ
第7回理事会（2025-2026年度）

司 会：幹事 L.木野村匡
議事録作成者：L.伊藤啓太

日 時 2026年1月17日(土) 10:15
場 所 新羅神社

1. 開会 :
2. 定数確認 : 定数 11名 出席 10人 欠席 1人 委任状 1人
3. 会長挨拶 : 会長 L.岡山賢司
4. 議事録確認者指名 : L.足立判太郎

報告事項

はじめに幹事より、報告事項の支部立ち上げについては、これを議題1で行い、順次議題を繰り下げると案内があった。

1. 北海道・三陸沖後発地震の件

現在のところ334A地区より応援の要請は無いので、メンバーに支援の要請はしないが、今後の動向を見守っていくとの報告がなされた。

2. 香港国際大会の件

早期登録の締切が旅行代理店が変わった関係で1月27日15時に早まったのでご留意くださいとの案内があった。現在の参加者は日々野Lから申し込みを頂いているとの報告があった。

議 題

1. 支部立ち上げについて

1月11日に古賀Lの事務所において佐藤ZC、古賀L、会長、幹事とメンバー予定者で顔合わせを行ない、以下の報告がなされた。

当初5名の予定であったが7名での支部結成となる。7名のメンバーは非常に志の高い方だと思われる。今後は古賀Lが世話役となり、古賀Lの事務所を拠点として活動が行われるとの事である。活動内容としては、養正校区ではまだ行われていない『子ども食堂』の運営・支援を検討していて、また親クラブである多治見LCの活動にも参加していけたらとのことであった。

今日の理事会で7名の参加と結成の承認を得たのち、例会でも審議を行う。承認が得られたら今月中にインターネットで申請を行い『多治見うながっぱ支部』が設立されます。3月第2例会において支部メンバーを招き、合同例会を開きたいと考え

ています。

・その他支部についての報告事項

会費については国際会費等を考慮し、月額3000円。入会金は35ドル。

これは支部メンバーが個人で負担します。活動費については、社会福祉協議会へ補助金を申請し活用する計画である。

支部は月に1～2回程度例会を行い、活動内容は自主的に決定する。事業実施の際は理事会への報告が必要。親クラブから初期費用支援は予定していない。親クラブが行う事業（例、献血、薬物乱用防止講座等）への参加や、支部事業に親クラブが手伝えることがあれば協力するなど、相互連携は可能である。

その他意見交換

- 懸念事項：来期以降、家族例会やさよなら例会などに支部メンバーを招待する場合の費用負担（実費か、クラブ負担か）をどうするか。
- もしクラブが費用を負担する可能性がある場合、事前に予算化する必要がある。
- 議論：
 - 現段階で来期の費用発生に関する予定は不明確である。
 - 予算措置について、いずれかの委員会が担当する必要があるのではないかという意見が出される（例：「クラブ支部」の項目を設けて予算立てをする）。
 - 基本的には、費用が発生する場合は支部が自主的に資金を調達する形が想定される。例会等への参加は実費負担となる可能性が高い。
 - 設立直後は相互交流もすぐには軌道に乗らない可能性があり、本格的な連携は少し先になるかもしれない。
- 役員構成：
 - 会長：加藤雄木輝氏
 - 幹事：長塚美和氏
 - 会計：鈴木美香子氏
- 会費徴収：
 - 請求書は親クラブの事務所から古賀Lの事務所へ送付される。
 - 支部で会費をとりまとめ、クラブへ納入される形式となる。
- 懸念事項：支部活動中（例：子ども食堂での食中毒、怪我など）に事故が発生した場合、親クラブにも責任が及ぶのか。
- 議論：
 - 「ライオンズクラブ」を名乗る以上、ある程度の監督責任は生じる可能性がある。
 - 活動を完全に任せきりにするのではなく、親クラブとしてもしっかりと活動を把握し、関与していく体制を整えるべきである。
 - 他地区の支部規約などを参考に、体制を検討する必要がある。

以上の議論の後、理事会にて、新支部『多治見うながっぱ支部』の立ち上げが全員賛成で承認され、支部設立に向け手続きを進めることが決定された。

2. 東南アジア・南アジアを襲う豪雨、洪水や土砂崩れでの甚大な被害に対するアラートの要請について

支援要請にもとづいて、アラート基金より1人あたり1000円拠出することが承認された。

議事録確認者

足立 判太郎
